

価値創造プロセス

日本ユニシスグループは、これまで培ってきた強みを武器に、業種・業態の垣根を越えたビジネスエコシステムを創造し、顧客課題の背景にあるさまざまな社会課題を解決することで、社会的・経済的価値を創出していきます。

顧客や社会からの信頼を獲得し、さらなるビジネス機会の獲得による持続的成長の好循環を実現

ワクワクする未来へ

持続可能な社会の実現



競争優位の源泉

インプット

社会・関係資本

- 幅広い業種・業界にわたる顧客基盤
顧客数 5,000社以上
- 信頼によって培われたリレーションシップ
ユーザー会「ユニシス研究会」
会員数 約530社
エンジニアベンダー 500社以上

人的資本

- 社会課題を自らの課題と捉え、行動できる人財
- 自らイノベーションを生み出す人財
- 多様な働き方に対応した人財
従業員数 7,830人
人的資本投資額 34億円
女性管理職比率 5.5%
- システム実装力を備えた人財
エンジニア数 5,100人

財務資本

- 自己資本額 1,205億円
- フリー・キャッシュ・フロー 143億円

知的資本

- 60年以上の歴史で培ったさまざまな業界の業務知識、技術力
- ベンチャー、スタートアップとの連携によるオープンイノベーション
- 新たなサービス創出のための投資
投資額*1 190億円

自然資本

- 環境への配慮・グリーン調達の推進
エネルギー使用量 7,855kl

製造資本

- システム品質
データセンター設備障害対応訓練回数 各所拠点 12~13回/年
セキュリティトレーニング受講率 100%
- 実効性あるBCP体制
- 国内全体、海外8カ国に広がるサービス拠点

当社グループの強み

さまざまな業界の顧客・パートナーとのリレーションシップ

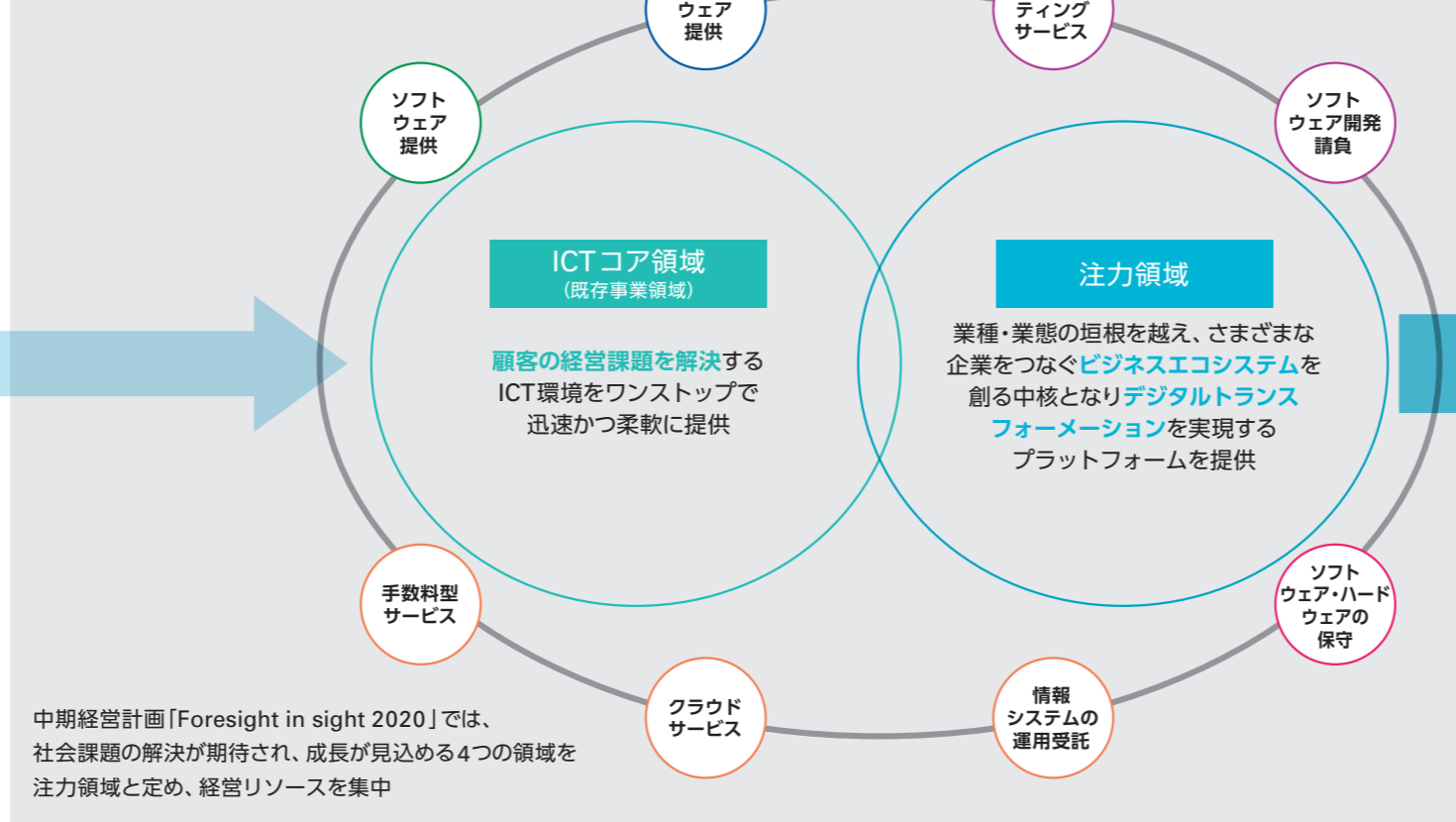
完結するシステム実装力

ベンダーフリー＆ワンストップのサポート力

新しいサービスをデザインし実現する力

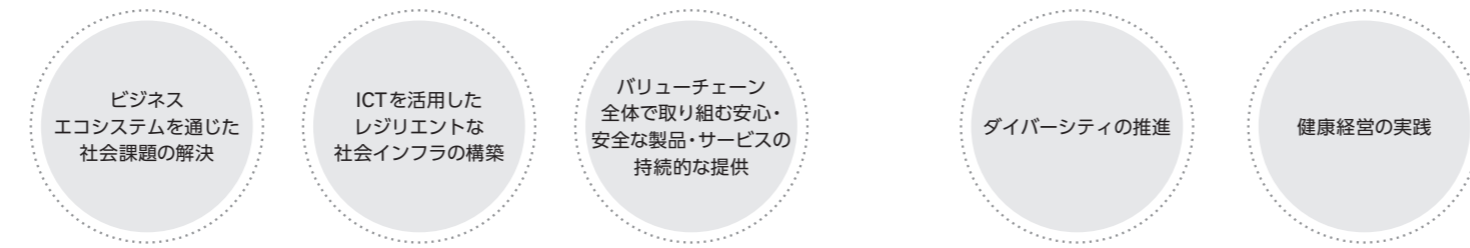
ビジネスモデル

先見性と洞察力、ICTを組み合わせ、お客様に最もふさわしい形のソリューションやサービスを提供するとともに、新しいビジネスモデルやビジネスエコシステムを創出



中期経営計画「Foresight in sight 2020」では、社会課題の解決が期待され、成長が見込める4つの領域を注力領域と定め、経営リソースを集中

サステナビリティ重要課題



日本ユニシスグループのサステナビリティを支えるしくみ

- 人財マネジメント
- 環境マネジメント
- コーポレート・ガバナンス
- リスクマネジメント

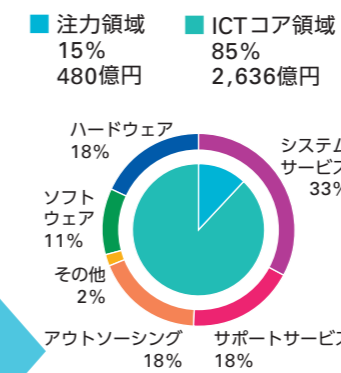
Foresight in sight

「先見性」でいち早くキャッチしたお客様や社会の課題を、経験や常識にとらわれない「洞察力」で深く理解

サービスの創出

アウトプット

2019年度売上高
3,116億円



注力領域におけるさまざまなサービス群

- ネオバンク
- デジタルアクセラレーション
- スマートタウン
- アセットガーディアン

(負荷としてのアウトプット)
温室効果ガス排出量 14,358t-CO₂

社会的価値と経済的価値の創造

アウトカム

- 社会・関係資本
ビジネスエコシステム提供を通じた社会課題解決
取引先、ステークホルダーとの連携による社会的責任の遂行
[日本ユニシスグループ購買取引行動指針]理解度 99.8%

人的資本

- ビジョン・戦略を共有し、自ら価値創造できる人財
- イノベーションを通じた高いレベルの経済生産性
1人当たり営業利益(2018年度比) +25.3%
有給休暇取得率 86.2%

財務資本

- 高い資本効率
ROE 15.5%
- 高い株主還元
過去5年間のTSR 273.9%*2 (年率+22.3%)
- 強固な財務基盤
発行体格付*3 A-
自己資本比率 56.0%

知的資本

- 新しいサービスの創出
ニュースリリース数 78件
- VCファンドや社会課題解決を目指すリアルテック系ベンチャーへの出資数(累計) 14ファンド、40社超

自然資本

- 環境負荷低減に貢献するサービスの普及・拡大
- 効率の良いエネルギー使用
温室効果ガス排出量原単位削減率(2014年度比) 30%
エネルギー使用量原単位改善率(2014年度比) 20%

製造資本

- サービスの安定稼働
オンライン稼働率 99.997%
- コストオーバーの抑制

*1 研究開発費、設備投資額、戦略投資額の合計
(注) 2019年度または2020年3月末時点のデータ

*2 2015年3月末日の終値データを100としてTSRによる時価を指数化
*3 株式会社格付投資情報センター (R&I)